

提言第12号 胸腔穿刺に係る死亡事例の分析

事例5

< 事例概要 >

- ・ 80 歳代、肺がん手術後の膿胸治療中の患者。
- ・ 治療効果判定目的で、呼吸器外科で右胸腔穿刺を実施。
- ・ 事前にCT 画像、穿刺直前に超音波画像で胸水の貯留を確認。穿刺部位は、右第 2 肋間胸骨右縁 3 横指外側を選択。
- ・ 試験穿刺で漿液性の排液を確認。本穿刺 1 回目で排液の流出なく、2 回目の穿刺で約5 mL の血性排液を吸引し、数秒後に意識消失。超音波検査で心タンポナーデと判断し、心嚢ドレナージ、緊急開胸手術を実施するが、約 2 週間後死亡。
- ・ 死因は、上行大動脈損傷による心タンポナーデおよび出血性ショック。死亡時画像診断（Ai）有、解剖無。